ニッパツグループ企業理念の刷新



2026年に企業理念を刷新しました。
当社グループがこれからも「なくてはならない存在」であり続けるため、
長期的な在りたい姿と存在意義を明確にした理念です。
当社グループの目指す姿を明確にし、そこへ向けて大切にする価値観を
伝わりやすい言葉で言語化することで、グループの多様な技術と発想、人の力を結集し、
今まで以上にグループの力を発揮していくことで、人々の心がはずむ未来の実現に貢献していきます。

キーパーツで 世界を動かす

キーパーツ

なくてはならない「製品」にとどまらず、
「ニッパツグループが、世界を前へ進める上で欠かせない『存在』である」
という誇りと意志

動かす

主体性を持って未来の課題を探求し、
価値を創造し提供していく、
世界を前へ動かしていく、という挑戦の意志

会長CEOメッセージ



代表取締役会長 CEO

茅本 隆司

企業理念の刷新

2026年4月に、当社グループの企業理念を新しくしました。「キーパーツで 世界を動かす」です。端的で分かりやすく、従業員一人ひとりが自らの仕事と結び付けやすい理念になったと感じています。引き続き、全グループでの共有・体現活動を推進していきます。

新企業理念案を議論するにあたって、どのような意志を込めるかが肝でした。当社は部品メーカーとして、お客様のご要望にお応えする、ということに長年全力を尽くしてきました。そのため、「世の中を陰ながら“支える”」という意識が社内には良くも悪くも定着していたように思います。しかし、これからのニッパツは、お客様から求められたものをつくるだけの部品メーカーでは立ち行きません。お客様や社会のニーズを先取りし、自発的に、チャレンジングに、ニッパツ製品の価値を届けていかなければなりません。そんな折、企業理念案として、従業員から「世界を動かす」という能動的なワードが出てきたことをとても嬉しく思います。新たな企業理念に込めたこの能動的かつ挑戦的な想いを、グループ全従業員で共有することで、これからのニッパツが成長するための原動力としていきます。

2026中期経営計画と2030中期経営計画

2026中期経営計画（以下、26中計）も最終年度に差し掛かり、残すところあとわずかとなりました。国内自動車生産台数の減少、自動車の電動化の鈍化、地政学リスクの高まり、インフレや資材・エネルギー価格の上昇、AIの進展といった環境変化の中、26中計を経て、現在我々は次期中計である2030中期経営計画（以下、30中計）の策定に向け、スタート地点にいます。

30中計は、まさに正念場です。2030年がゴールというわけでは決してなく、2039年の創立100周年に向けても、その先さらに長く続く企業になるためにも、当社グループの持てる経営資源をどう振り分け、何をどう伸ばしていくか、30中計で方向づけていく。そのような意味を持つ中計だと考えています。当社グループを取り巻く厳しい環境に覚悟を持って向き合い、皆さまにお示ししていきます。

コーポレート・ガバナンスについての対話

2026年度も、8件のSR面談に出席し、取締役会議長として機関投資家の皆様と対話を行いました。ガバナンスについても、投資家の皆様から率直なご意見を伺うとともに、それに対する当社の考え方やスタンスをお伝えし、相互理解を深めることができたと感じています。

今回、多くのご意見をいただいたのは、社外取締役の構成についてです。2026年6月の株主総会において女性社外取締役1名が退任したことにより、社外取締役比率および女性取締役比率が低下したことについて、ご指摘やご懸念をいただきました。選任にあたっては、当社の持続的な成長に必要な知見を見極め、企業経営の経験や当社とは異なる視点を重視していきます。今後も、取締役会の多様性と実効性を一層高めていきます。

同様に、任意の指名報酬委員会の独立性や選任プロセスの見える化、さらには中期経営計画の策定過程における社外取締役の関与についても、多くのご意見をいただきました。当社では、重要な経営計画の検討において、早い段階から社外取締役との議論を重ね、多様な視点を経営に取り入れています。また、取締役会の日より前に社外役員に対して事前説明を行い、議論の前提となる基本的な質疑応答を済ませ、理解を深めて取締役会当日に臨んでいただき、議論のポイントに直接関与した様々な有益な発言をいただいています。今後も、こうした仕組みの実効性をさらに高めるとともに、社外取締役の関与や意思決定プロセスがより伝わる開示を充実させていきます。

当社は今後も社外取締役の多様な知見を経営に取り入れながら取締役会の実効性向上に努めるとともに、投資家の皆様との建設的な対話を通じてガバナンスのさらなる強化と情報開示の充実を図っていきます。

社長COOメッセージ



代表取締役社長 COO
上村和久

ニッパツグループ企業理念

キーパーツで 世界を動かす

新たなニッパツグループ企業理念

当社グループは、2026年4月に企業理念を刷新し「キーパーツで 世界を動かす」を掲げました。英語では、「Key Parts, Driving the World Forward」です。

1939年の創立以来、当社グループは、モビリティ、情報通信、産業・生活分野など、幅広い領域で社会を支える“なくてはならないキーパーツ”を提供してきました。私たちの製品は、人々の暮らしや産業の基盤を陰で支えています。私は、当社グループが担ってきた役割に大きな誇りを持っています。

一方で、社会や事業環境の不確実性は、これまでになく高まっています。変化のスピードが加速する中で、従来の延長線上にある発想や行動だけでは、持続的な成長を実現することはできません。これからの時代を生き抜くためには、変化に対応するだけでなく、自ら未来を描き、明確な方向性のもとで主体的かつ継続的に価値を創造していかなければなりません。

そこで、2030中期経営計画の策定や2039年の創立100周年が目前に控える中、当社グループがどこを目指し、何を大切にして進んでいくのかといった、創立100周年のその先を見据えたニッパツグループのありたい姿を、今改めて言葉にする必要があると考えました。

その原動力になるのが、グループの求心力となる企業理念です。しかし、従来の理念は、従業員エンゲージメント調査の結果を見るに、共感や浸透、納得感に関する評価が十分に高いとは言えない状況でした。だからこそ今、当社グループの目指す姿をより明確に示し、従業員にもステークホルダーの皆さまにも共感いただける、簡潔な理念へと刷新することとしました。

理念刷新にあたっては、少人数のプロジェクトチームを中心に、私自身もその議論に深く加わり、何度も対話を繰り返しながら、新たな理念に込める想いを磨き上げました。そこに込めたのは、なくてはならないキーパーツの提供に加え、当社グループ、そして従業員一人ひとりが世界を前へ進める存在、つまり鍵（キー）でありたいという強い意志です。社会にとって欠かせない価値を生み出し続ける企業であるために、私たち自身が変化を恐れず、挑戦し続ける決意を込めました。

理念の浸透は、まだ道半ばです。理念は掲げて終わるものではなく、一人ひとりがその意味を理解し、共感し、日々の行動に移してこそ力を発揮します。当社グループは、これからも丁寧に浸透を進め、理念を実践につなげていきます。

新たな企業理念のもと、グループ全体が一丸となり、多様な技術と発想、そして人の力を結集することで、社会に新たな価値を創出し、さらなる企業価値向上へとつなげていくことで、これからの社会にも“なくてはならない会社”であり続けます。

社長COOメッセージ

2026中期経営計画の進捗

2026中期経営計画（以下、26中計）も最終年度となりました。AI・データセンターの需要を取り込んだDDS事業の成長や、半導体プロセス部品の事業拡大が目覚ましく、情報通信分野における当社の存在感を高められたことが26中計の大きな成果だと認識しています。加えて、人事制度の改訂や重筋作業撲滅への着手、ライセンス手当の拡充など、着実に従業員の働きやすさ・エンゲージメントの向上に近づいているという実感が持てています。一方で、自動車分野、特に懸架ばね事業の収益性改善や、次の柱となる事業の確立は、目指す水準までは届いていないのが現状です。また、グループガバナンスも課題です。当社グループには国内外多くの拠点がありますが、これからは企業理念を共通言語に、より同じ方向を向けるようにしていかなければなりません。

次期中期経営計画と さらにその先の成長に向けて

足元の事業環境を見ると、AIの普及を背景としたデータセンター需要の拡大などを受け、DDSや半導体プロセス部品への関心が高まっています。一方で、自動車業界では電動化の進展に一時的な揺り戻しも見られ、市場の見通しはこれまで以上に不確実になっています。私は、こうした変化が大きい時代だからこそ、目先の動きに振り回されるのではなく、当社がどの領域で価値を創出し、どの技術を軸に成長していくのかを、見極めていくことが重要だと考えています。次期2030中期経営計画では、個別事業を積み上げたうえで、当社グループが中長期的にどうあるべきかという視点から、事業構成のあり方を見つめ直していきます。

懸架ばね事業は当社の祖業であり、社名にも含まれるアイデンティティそのものです。ただ単に「祖業だから守る」ということではありません。ばねの技術は、当社が長年にわたり培ってきた競争優位の源泉であり、その技術の蓄積があったからこそ、現在のDDS事業のような新たな事業も生まれてきました。懸架ばね事業をはじめとする自動車向けの事業で長年蓄積された知的資本は、他の事業、ひいては今後新たな事業の創出・発展にも欠かせないものです。また、自動車向けの事業は、厳しい品質要求や納期要求に応え続ける中で築いてきた、お客様からの信頼の証でもあります。私は、既存事業の目の前の課題を一つひとつ解決し、付加価値を生み出すことで収益力を着実に回復させながら、次の成長につながる技術と信頼の土台として磨き続けるべきだと考えています。

一方で、成長領域には戦略的に経営資源を投下していきます。DDS事業については、AI市場などの後押しもあり、今後も需要は続くと見ています。重要なのは、この事業が生み出す利益を確実に成長投資へとつなげることです。半導体関連分野も含め、当社が強みを持つ領域には引き続き積極的に投資し、次の収益の柱を育てていきます。

クルマの電動化については、足元では進展がやや緩やかになっている面があるものの、私はその流れ自体が止まるとは見ていません。再び加速する局面は必ず来ます。ただし、EVやHVの構成比など、その進み方はなお流動的です。だからこそ当社は、形式の違いに左右されにくいモーター関連や熱マネジメント関連など、今後の需要拡大が期待できる領域に注力し、車両の世代交代のタイミングを見据えて提案を広げていきます。具体的な投資や開発の考え方については、次期中計の中でより明確にお示ししたいと考えています。

こうした成長を実現するうえで、私が何より重要だと考えているのは、人への投資です。従業員一人ひとりが、のびのびと力を発揮し、挑戦できる環境こそが、新しい価値を生む原動力です。当社グループがこれからも成長し続けるために、出る杭を伸ばす文化を守りながら、個性と能力、そして意欲を引き出していくことが不可欠です。だからこそ、人的投資は今後も積極的に続けていきます。次に、守り、発展させていくべきは、当社の知的資本です。特許だけではなく、生産技術、ノウハウ、従業員一人ひとりの「知」はすべて当社の重要な資産であり、ものづくりの要といえます。

一方で、会社として変革すべきことには、勇気をもって取り組みます。例えば、あらゆることへのスピードアップです。特にものづくりにおける開発スピードは抜本的に速める必要があります。お客様の開発スピードについていけなければ、国際競争に勝つことはできません。従来の実機中心の開発だけでなく、DXやデジタルツインを活用しながら、ものづくりそのものを進化させていきます。当社ではすでに全社横断でDXプロジェクトを始動しており、着実に効果が出始めています。

次期中計では、ありたい姿に向けてやりたいことを具体的に計画に落とし込み、何を伸ばし、どう変えていくのか取捨選択し、夢と現実の両方を見据えた戦略を示していきます。私は、その覚悟を持って、ニッパツグループの次の成長を形にしていきます。

ご挨拶

当社グループは、新たな企業理念のもと、さらにグループの力を結集し、あらゆる分野でキーパーツを提供することで、さらなる価値向上に取り組んでまいります。

本統合報告書を通じて、当社グループの考え方と活動の一端を株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまにご理解いただき、期待感を持っていただければ幸いです。さらに今後に向けた対話を重ね、ともに価値を高めていけることを期待いたします。皆さまにおかれましては、変わらぬ支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ニッパツグループが大切にする価値観

2026年4月に、企業理念刷新とともに、理念体系の再整理を行いました。企業理念に加え、サステナビリティ基本方針、ニッパツウェイ、行動指針まで一体で整理することで、当社グループが長年大切にしてきた考え方を磨き直し、従業員一人ひとりが日々の行動に紐づけていくことを目的としています。

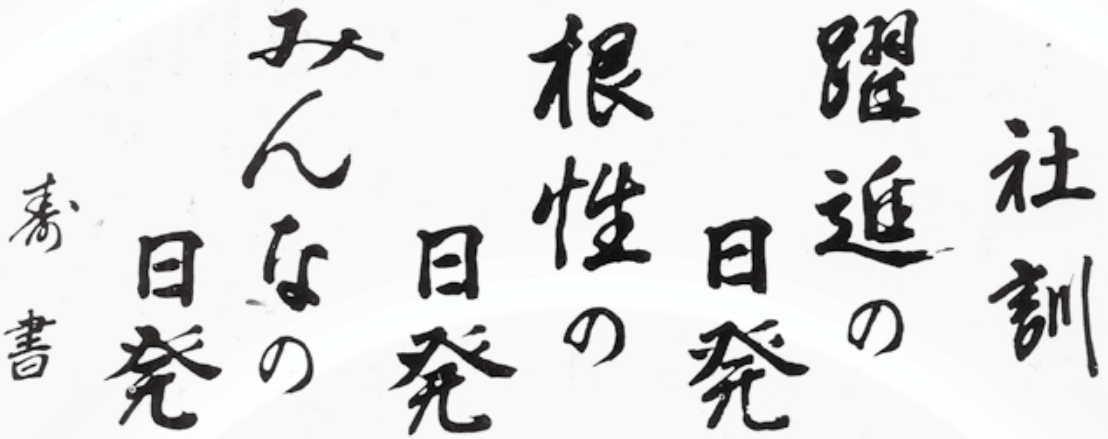




ニッパツグループが大切にする価値観

社 訓

1964年に第3代社長 坂本壽によって制定されました。
事業と従業員の成長による社会への貢献、困難にもへこたれず、競争に勝ち抜く強い気持ち、従業員や社会との信頼関係を表した、当社の大切な3つの精神です。



みんな

従業員を大切にし、
すべてのステークホルダーへ
誠実に向き合う

根性

夢中になって取り組み、
困難にもへこたれず、
粘り強く向き合う

躍進

従業員も会社も両方が成長し、
世の中の発展にとって
なくてはならないキーパーツを提供し、
社会に貢献する

ニッパツグループが大切にする価値観

ニッパツグループ
サステナビリティ基本方針

サステナビリティのために果たすべき責任と価値創造に係る方針です。

私たちは、企業理念のもと、健全なガバナンスを基盤とした責任ある活動を通じ、グループ全体で持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

- **地球環境を保全するために、あらゆる努力をします。**
- **人を大切にし、人を育みます。**
- **すべての企業活動において人権を尊重します。**
- **透明かつ誠実で、持続可能な事業運営を行います。**
- **国際的規範および各国の法令を順守し、倫理的に行動します。**

ニッパツウェイ

企業理念達成およびサステナビリティ推進のために、
会社と役員・従業員が共有する価値観と行動様式です。

私は、
社会と共に歩む
迅速に行動する
広い視野を持つ
粘り強く前進する
変革に挑む

ニッパツグループ
行動指針

当社グループの役員・従業員が順守すべき倫理・法令を示す指針です。

1. **持続可能で安全・安心な社会づくりに向けて取り組む**
   （1）地球環境保全活動の推進
   （2）商品の安全性と品質の追求

2. **人を大切にし、人が活躍する職場を実現する**
   （1）人権・多様性の尊重
   （2）健康で安全に働ける職場環境の実現
   （3）自らの意思による労働の尊重

3. **誠実に業務に取り組む**
   （1）正確な記録と透明性の維持
   （2）企業秘密および個人情報の適切な管理
   （3）知的財産権の保護
   （4）輸出入関係の法令順守
   （5）違法行為・反社会的行為の禁止
   （6）迅速な相談・通報の徹底

4. **フェアに行動する**
   （1）競争法の順守
   （2）公正で透明な調達活動
   （3）腐敗防止
   （4）インサイダー取引の禁止
   （5）公私のけじめと利益相反行為の禁止

目次

イントロダクション

1 ニッパツグループ企業理念の刷新



2 会長CEOメッセージ



3 社長COOメッセージ

5 ニッパツグループが大切にする価値観
8 目次
9 編集方針
10 At a glance
12 価値創造の軌跡
13 コア技術の発展

ニッパツの価値創造

14 価値創造プロセス
15 経営資源
16 人的資本 価値創造サイクル
17 人的資本と価値創造のあゆみ



20 代表取締役×知的財産部従業員 座談会



24 知的資本 価値創造プロセス
25 グループの総合力を生み出す新たな知的財産方針
26 バリューチェーン
27 ニッパツグループが社会に提供するキーパーツ

成長戦略

28 外部環境の変化、リスクと機会
29 2026中期経営計画
32 人的資本投資
33 DX投資
35 カーボンニュートラル投資、研究開発投資、事業投資



36 CFOメッセージ

セグメント別の成長戦略
38 懸架ばね事業
39 シート事業
40 精密部品事業
41 DDS事業
42 産業機器ほか事業

サステナビリティ

43 サステナビリティ基本方針・推進体制
44 マテリアリティ（重要課題）と具体的な取り組み
45 地球環境保全への対応
46 CO_2排出量の削減
47 産業廃棄物（サーマルリサイクルおよび埋立）の削減
48 環境貢献型製品の創出
49 事業活動とライフサイクルフロー
50 人的資本経営の強化
52 人権の尊重
53 サプライチェーンマネジメント
54 安心・安全な製品づくりに向けた品質の取り組み
56 研究開発の取り組み
57 コーポレート・ガバナンス
63 株主・投資家との対話



64 社外取締役鼎談

67 マネジメント体制
68 コンプライアンス
69 リスクマネジメント

データ集

70 財務ハイライト
71 非財務ハイライト
72 会社概要・株式情報

表紙について

2026年4月に刷新した
当社グループの企業理念
「キーパーツで 世界を動かす」
をイメージした
デザインとなっています。



編集方針

当社は、グループを含めた社会性、環境保全、財務の年間の活動をまとめ、その概要を報告する「ニッパツレポート」を2008年度から発行しています。
19年目となる「ニッパツレポート2026」は、統合報告書として4回目の発行となります。当レポートは、当社グループが企業理念達成に向けて、どのように成長し、企業価値向上を通じて社会に価値を提供していくかをお伝えすることを目的としています。
なお、最新のサステナビリティ情報および詳しい株主・投資家情報はホームページに掲載していますので、合わせてご覧ください。

当社ホームページ

ニッパツレポート2026のポイント

次期中期経営計画および創立100周年に向けて、当社が従来より大事にしてきた「人を大切にする」という考え方に基づく人的資本経営、そして、ものづくり企業として欠かせない知的資本経営にフォーカスしました。これらの資本が当社の成長にどのように結びつくのかを深堀りし、その意志、取り組みをご紹介しています。

報告対象範囲

当レポートは、基本的に当社グループの事業活動を対象としています。グループ全体を対象とする活動報告は「当社グループ」、ニッパツ単体を対象とする活動報告は「当社」、グループ会社を対象とする活動報告は各会社名とすることで、報告の正確性に努めました。

報告対象期間

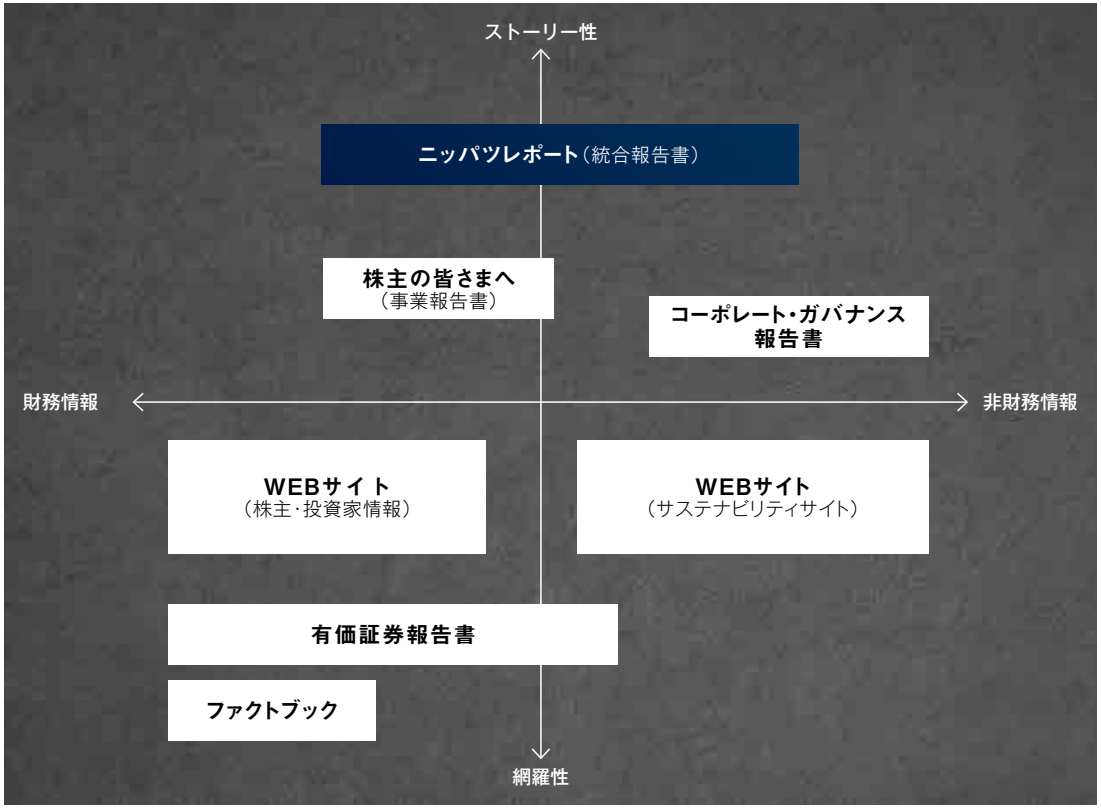
原則として2025年4月から2026年3月の事業活動を対象としています。なお、大きな動きについては2026年4月以降の活動も掲載しています。

報告対象読者

当レポートは、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆さまを対象としています。

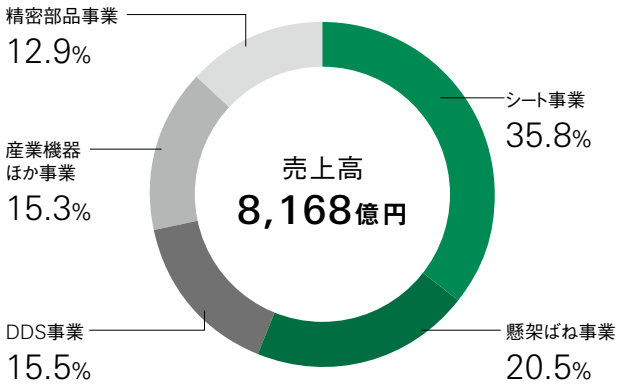
参考ガイドライン

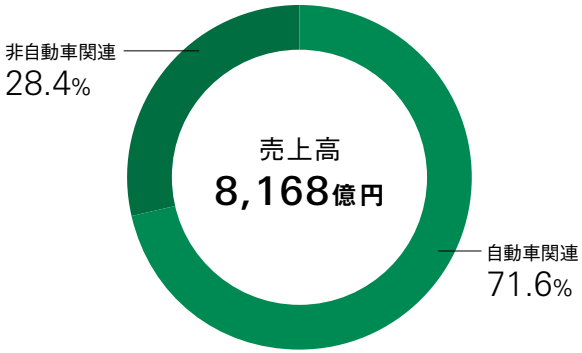
・国際統合報告フレームワーク（IFRS 財団）
・価値協創ガイダンス2.0（経済産業省）
・GRI スタンダード（Global Reporting Initiative）



At a glance

売上高構成（2026年3月末時点）





数字で見るニッパツ（2026年3月末時点）

創立	連結従業員数	グループ会社数
1939年	20,833名 ※ 臨時従業員の年間平均雇用人員を含む	世界13カ国 49社 ※ うち連結対象会社　37社 持分法適用会社　5社
懸架ばね 世界シェア	HDD用サスペンション 世界シェア	パワーデバイス用金属基板 世界シェア
1位 ※ 当社調べ	1位 ※ 当社調べ	1位 ※ 当社調べ

ニッパツグループの強み

創立以来磨き上げてきた
金属加工をはじめとするコア技術
および独自のノウハウ

独立系企業ならではの業界動向把握、
お客様との信頼関係、
ノウハウ蓄積、オールラウンド戦略

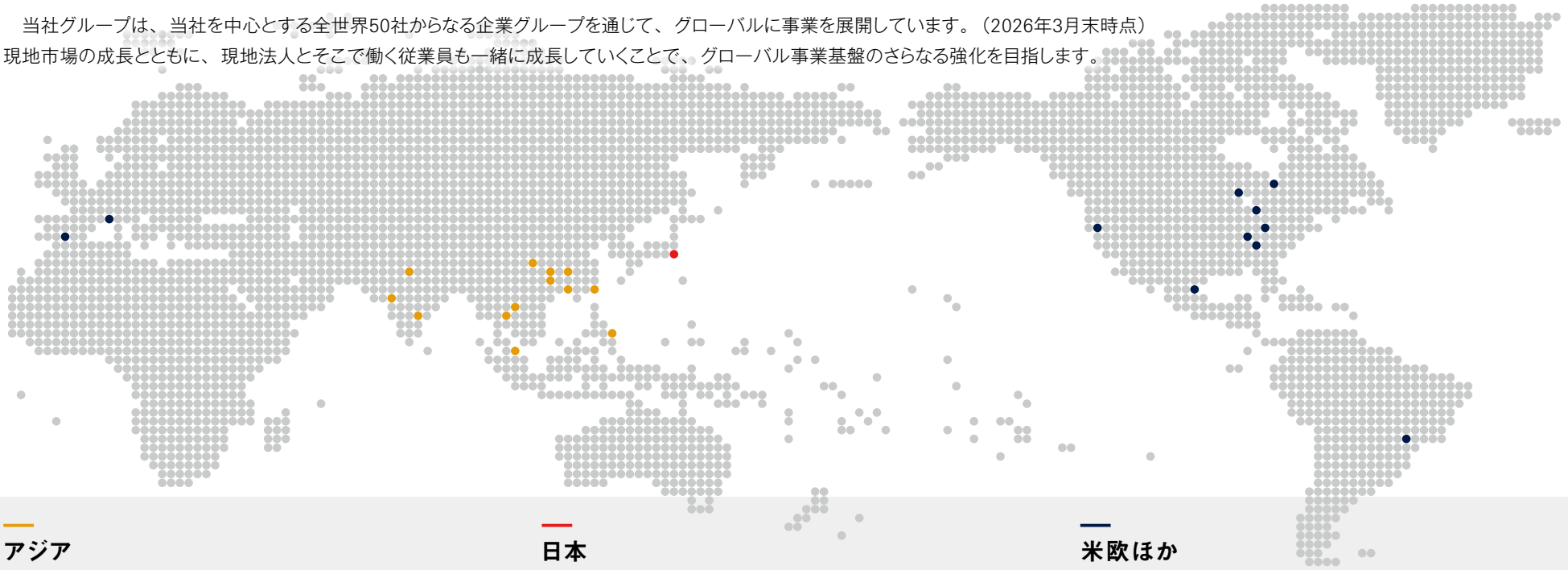
品質優先のものづくり、
フロントローディングの考え方、
品質を支える解析・評価技術

「出る杭を伸ばす」
企業文化のもと育まれた人の力

高い市場シェアをもつ製品群

At a glance

当社グループは、当社を中心とする全世界50社からなる企業グループを通じて、グローバルに事業を展開しています。（2026年3月末時点）
現地市場の成長とともに、現地法人とそこで働く従業員も一緒に成長していくことで、グローバル事業基盤のさらなる強化を目指します。

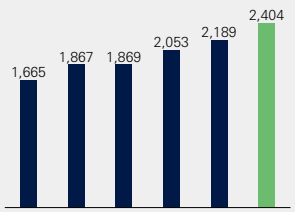


アジア

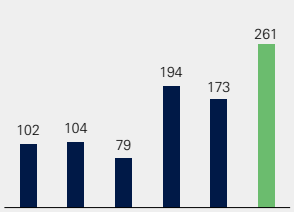
タイに進出して63年、自動車関連部品や
HDDサスペンションなどを手掛けています。

グループ会社	16社
うち連結子会社	10社
持分法適用会社	0社
従業員数	8,378名

売上高（億円）



営業利益（億円）

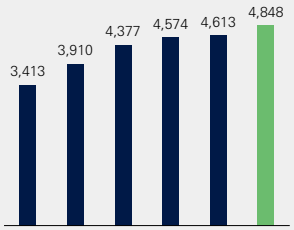


日本

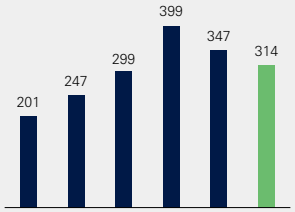
全製品のマザー工場と
研究開発拠点を備えています。

本社および グループ会社	24社
うち連結子会社	19社
持分法適用会社	3社
従業員数	10,040名

売上高（億円）



営業利益（億円）

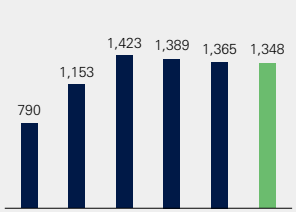


米欧ほか

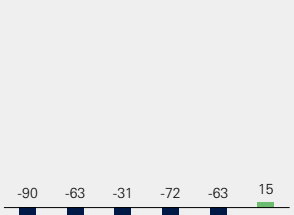
米国に進出して50年、自動車部品を中心に生産し、
研究開発拠点も備えています。

グループ会社	10社
うち連結子会社	8社
持分法適用会社	2社
従業員数	2,415名

売上高（億円）



営業利益（億円）



価値創造の軌跡

ニッパツグループのあゆみ

当社グループは1939年の創業以来、時代ごとに求められる価値を見極め、なくてはならないキーパーツを通じて社会の発展と人々の暮らしを支えてきました。その軌跡をご紹介します。

	1939年～	1960年代～	1970年代～	2000年代～	2020年代～
社会課題	戦中戦後の復興へ 自動車メーカー向けの ばね需要が急増	国内自動車市場が急成長し、 日系自動車メーカーが 海外進出を開始	OA化やコンピュータの普及、 HDD大容量化などの 情報通信分野の需要拡大	データセンター・半導体市場の拡大 自動車の新潮流「CASE」	AI・デジタル社会の急拡大 脱炭素・循環型社会への転換
ニッパツの価値創造	自動車の安全性、 快適性を支える祖業 懸架ばねで地位を確立	シート事業を新設し、 自動車分野の拡大と アジア展開に向け 海外進出を開始	金属基板のほか、 プリンタ用精密部品や HDD用サスペンションなど 非自動車分野を拡大	HDD用サスペンションの グローバルな生産体制を確立 電動車向けモーターコアの 開発強化	脱炭素を推進するとともに、 クルマの電動化・ 半導体分野への投資を進め、 次世代の成長基盤を構築
関連する主な出来事	1939年 「鈴木商店」出身者の事業家らが「芝浦スプリングス」を買収し、社名を「日本発条」として開始	1961年 シートスプリング専門の工場を新設 1963年 初の海外拠点、タイ合弁会社を設立	1971年 中期経営計画で 非自動車分野での拡大を目標に掲げる 1981年 OA機器市場の急成長により ドットプリンタ用アマチュア 生産開始	2001年 接合・セラミック事業 （現半導体プロセス部品事業）が新設 2007年 主要HDDメーカーの進出に合わせて、 タイにてHDD用サスペンションの出荷を開始	2021年 ニッパツグループ環境チャレンジで カーボンニュートラル目標を宣言



芝浦から磯子へ移転。最新鋭の工場を設立

1951年
ショートピーニング（ばねの寿命を画期的に向上させる加工技術）の開発に日本で初めて成功

1955年
三枚ばねが初代クラウンに搭載



初代クラウンに搭載された三枚ばね

1958年
大同発条との大合併で
ばね業界首位の地位を確立

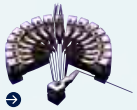


タイニッパツ初の入社式

1964年
名古屋工場で
自動車用ウレタン一体発泡シート量産開始

自動車用
ウレタン一体発泡シート





ドットプリンタ用アマチュア

1983年
HDD用サスペンション開発開始

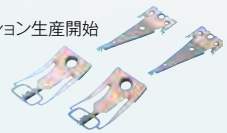
1986年
民生用途向け
金属ベースプリント配線板の
生産開始



プリント配線板

1991年
駒ケ根工場にて
HDD用サスペンション生産開始

初期のHDD用
サスペンション



1995年
精密ばね生産本部、サスペンション部新設

1996年
HDD用サスペンションの増産に向けて
工場拡張



自動車用
モーターコア
（分割タイプ）

2001年
接合・セラミック事業
（現半導体プロセス部品事業）が新設

2007年
主要HDDメーカーの進出に合わせて、
タイにてHDD用サスペンションの出荷を開始

2013年
世界初の量産EV向けモーターコアの量産開始

2018年
クルマの電動化にともなう開発強化のための
電動化事業推進室を設置

2019年
半導体プロセス部品
需要拡大に伴い宮田工場新設

超大容量HDD需要向けに
サスペンション
TSAモデルの生産開始



HDDのさらなる
大容量化に貢献



駒ケ根工場屋上に
太陽光パネルを設置

2023年
クルマの電動化の進展を見据え、
厚木工場にモーターコアの新生産棟が完成

2024年
半導体プロセス部品増産に向けて
宮田工場を拡張



半導体製造
工程で使用される
冷却板

金属基板の需要に対応するため
マレーシア拠点を拡張

コア技術の発展

当社グループは、時代の要請に応え、社会に貢献する様々な製品を生み出してきました。自動車の懸架ばねから始まった当社グループの事業は、ばねのコア技術と金属加工技術をもとに、自動車、情報通信、産業・生活分野へ発展しています。当社グループはこれからも、「なくてはならないキーパーツ」を世の中に送り出し、ものづくりを通じて社会の発展を支えていきます。

